

編集後記

山岡さんから退職記念論文集である本書の編集を依頼され、経済教育の分野ではありますが、初めてその役目を引き受けさせていただきました。他の研究分野も含めて、山岡さんご自身も予想されなかった数多くの研究者の方々から寄稿していただき、たいへん立派な論文集ができ上がったと安堵しているところです。実は、本書に載った方以外にも、旧知の研究者数名から寄稿したいとのご希望が寄せられましたが、残念ながら紙幅の関係で断念していただいたことをここに付記します。

編集を担当して改めて感慨深かったのは、経済教育の分野だけでも、日本以外に韓国から3名、アメリカから2名、スコットランドから1名、ニュージーランドから3名、ドイツから2名の寄稿者があったことです。これはまさに、山岡さんが経済教育の分野においても、国際的に多彩な研究活動を展開していた証であると思われます。アメリカの非営利団体である経済教育協議会（Council for Economic Education）の年次大会を初め、韓国、中国、台湾、ニュージーランド、ドイツなどで開催された学会、講演会、シンポジウム、セミナーなどに筆者も同行させていただいたことを懐かしく思い出します。そうした海外出張の折には、主催者が企画したソーシャル・イベントに参加したほか、自由時間を利用して地元の観光地や大学を訪れたり、名物の料理やお酒を楽しんだことが忘れられません。

同じことは、国内の学会に出席するために地方を訪れた時にも経験することができました。興味深いのは、学会で訪れた大学や研究発表した内容についてはおおかた忘れているのに、現地で見学した場所や食べた名物料理のことは鮮明に覚えていることです。香川の金刀比羅宮や京都の東寺・東福寺、福井の越前カニや札幌のジンギスカン鍋などが、特に印象に残っています。山岡さんの研究業績を読みながら、そうした思い出に浸ることができるのも、本書のひそかな楽しみであると私個人は感じています。

（浅野忠克）